



卒業式 贈った言葉 贈られた言葉

3月10日（金）、67名の3年生が詫間中学校を巣立っていきました。3年ぶりに全校生が体育館に入ることができました。また、国歌や校歌の斉唱、在校生の合唱、卒業生の合唱・記念合唱が行えました。3年生の思いが込められた「旅立ちの日に」と卒業記念合唱「あなたへ ～旅立ちに寄せるメッセージ～」、1・2年生が心を込めた歌「絆」。来賓の方からも感動しましたという感想をいただきました。楽しいこと、嬉しいこと、苦しいこと、悲しいこと、それらを乗り越えて、たくましく成長した卒業生の姿は立派でした。卒業式で、みなさんの代表が先輩に贈った言葉、先輩から贈られた言葉を改めて紹介します。

<送辞（抜粋）>



これからみなさまは、自分の夢に向かって、それぞれ違う道を歩まれます。その道のりは決して楽なものではなく、時には夢を諦（あきら）めたくなることもあるかもしれません。そんな時には、この詫間中学校で過ごした日々を、共に過ごした仲間を思い出してください。楽しかったこと、苦しくても逃げずに努力してきたからこそ、今の自分があることを忘れないでください。どんなことにも全力で立ち向かってきたみなさまなら、きっと大丈夫です。私たちはこれからも先輩方一人一人が輝き続け、自分の道を歩み続けてくださると信じております。（中略）私たち在校生は、先輩方が築き上げてきたこの詫間中学校の伝統を守り、必ず後輩へと受け継いでいきます。そして、みなさまが誇れる学校であり続けるよう努力してまいります。

<答辞（抜粋）>



桜舞い散る4月7日、まだ袖（そで）の余（あま）る制服を着て、希望と不安を胸に詫間中学校の門をくぐりました。1年生の頃は、入学してすぐに臨時休校となり、体育祭や合唱コンクールなどの学校行事が中止となりました。自分たちの演技ができないということはもちろんですが、何といても、楽しみにしていた詫間中学校の伝統である「総舞臺」が見られないということは、本当に悲しいことでした。（中略）在校生のみなさんへ。みなさんはこれから先、たくさんの壁にぶつかると思います。しかし、そんな時は、一人で抱（か）えこまず、誰かを頼り、時には誰かを支えてあげられる、そのやさしさの連鎖（れんさ）をつなげてほしいと思います。

また、失敗しても、間違えても、たくさんのことをお互いに、そして周りの人に気付かされていくと思います。友達や先生方といられる「今」を無駄にせず、たくさんの思い出をつくってください。頑張るみなさんを心から応援しています。（中略）3年生のみんなへ。今思えば、この三年間、ずっとマスクを着けたまま、制限されることが多かったよね。でもそんな学校生活も、みんなの笑顔で色付いて、忘れられない1ページに刻むことができました。たくさんの困難を乗り越えることのできた私たちなら、きっとこの先、何があっても大丈夫です。お互いに競い合ったり、くだらない話で笑い合ったりと、みんなと過ごせた時間が、何よりも、本当に幸せでした。次、みんなと会う時、お互いに何をしているのかな。それを見るのがとても楽しみです。その時は、今よりももっと思い出話をして、笑い合いたいです。もっと一緒にいられると思っていたけど、もう卒業だね。三年間本当にありがとう。